

宇治市教育振興基本計画へのパブリックコメント

素晴らしいビジョンでこのとおり進行されれば宇治の未来は明るいと思いました。ひとづくり・まちづくりのこの計画に影響を及ぼす、教育をとりまく環境は、あまりいいとは思えません。国の「自立」「協働」「創造」というキーワードの「自立」は従来から目標になっていて、定着しております。従来型の「自立」は親からの自立であり、親離れ、子離れが自立と捉えられてきた。本来の「いかに生きるか」という問いは親にも子にもなげかけられないまま経済的自立を優先させている。まずは経済的自立が大切ですが、高度成長期に「いかに生きるか」の問いかけなかったつけが右方下がりの現在、二トやひきこもりといった問題と並行で問題になっている。

「協働」は、市民の生涯学習への意識は高くなく、細い柱を太くしていかねばなりません。「創造」ときたら、前例のないことはなるべくしない社会構造の日本では大変難しい目標で、能動的な態度が前提になっているのにも不安を覚えました。宇治の市民は全体的に保守的です。だれかがやってくれると思っている市民が多数。教育委員会が積極的に能動的にその手本になるように動かないと達成するのは大変難しいと思いました。これからの教育委員会の努力への敬意の気持ちと協力できればと思い、疑問点、課題についての考察、他の市町村の取組、提案を述べたいと思います。

▶文部科学省のH26年度「スーパーグローバルハイスクール」についての意見

H26年度予算額(案) 806514000円(新規) H26年度より5年間

目的 グローバル化に対応、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身につけ、将来国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成する。

宇治市もこの計画に参加できないか？グローバルな社会課題は情報さえあれば目の前にあって、高校生が考えていく中で自分はなにができるかを探り、経済や世界情勢を理解して時代を捉える眼を育てる。そういった能力は宇治の次世代にも必要で重要だ。

問題解決能力は簡単に着くものではない。テクニックでなんとかなるものではなく経験も大切。小・中・高と目の前にある問題を解決していく、その積み重ねで育つ。深い教養には幅の広い読書も大切になる。特にグローバルな物の考え方を身につけるにはグローバルな問題を考えている組織の会議の見学といった体験学習も必要だ。

▶京都府の少人数制の取組は継続していつてもらいたい。成果が上がっているのに学力につながらないのはなぜだろう？

格差が広がっているからか。経済格差が学力格差の誘因となっている。学力をつけたい生徒と目的もなく学校に来ている生徒の意識の差、それが学習態度に表れる。意識の高い子は、たぶん学校では適当にして塾で勉強というパターンになっている。家庭教育も成り立たない家庭も増えていく現状で何らかの対策が必要だ。大阪府茨木市立郡山小の取組は参考になると思った。「暮らしのしんどさのせいにしたら、この子ら、ずっとうかび上がれん。教育の機会均等を守るのが、教師の役割やないか」教職員総がかりのチーム郡山としてのとりくみが始まった。放課後、子どもが教師に質問をしながら宿題に取り組めるように「学びルーム」を開く。朝ごはんを食べたか、夜更かしをしていないか、チェックする「生活振り返り週間」を年5回に増やす。教育委員会も教員免許を持つ専門支援員を3人配置、授業についていけない子のそばで指導。スクールソーシャルワーカーを中学校区に配置。地域も料理やテニスなど月1回の土曜講座を続けている。格差を超えるには学校を拠点に家庭や地域等社会全体が力を合わせる事が必要だと社会教育学の教授の指摘を受け止めた。ここで「協働」を市民がまさに学べる。「宇治市から落ちこぼれを出さない」取組を教育委員会がリーダーシップをとり、すすめてもらいたい。格差が固定化される前に対処してください。国の予算を格差是正に貰うために教育委員会が動いて下さい。格差の為に学ぶ楽しさを知らずに育つのは生涯学習を目標にしている宇治市としては放っておけない問題です。

舞鶴市の中筋小の実践、「協働」の取組の中心に「学校支援ネットワーク委員会」を置き、「授業とまちづくりのジョイント」を顧問の門脇教授が提案。子どもたちと大人が共に学び、一緒に汗をながすことで地域の課題を実現してしまおうという授業「ふるさと学習」が成果をあげている。3年生は地域に安心して遊べる場所がないことに気づいて、市の職員や専門家の力をかりて公園の場所探しから、設計までの課題をやりとげる。4年生は「川の美化」親たちとゴミ拾いや市民グループへのこえかけを提案。「高齢者の地域ケア」では、「独居老人調査」「お年寄りが自分の家で暮らせない理由」について聞き取りをしたうえで自分たちに出来る事を考える。生きた問題に取り組んで大人に力をかりながらも、自分たちで考え、たよらずに解決していく。地域の役にもたち大変自信になっている。大阪府箕面市は2013年9月から中学校給食を始めた。市では給食を始めた機会に田畑を残す仕組み作りを提案。4月に農業公社を立ち上げ、農家から給食用に市場価格並みで野菜を買い取る。公社は遊休農地も借り受け、政府の緊急雇用対策を活用して若者を雇って畑へと再生した。図1

▶目指す都市像に「みどりゆたかな住みたい、住んでよかった都市」。まちづくりの目標に「お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治」とあり、常々歴史と景観を大切にいただき感謝しております。一度幸福度の調査もしてもらいたい。昨年9月の国連幸福度調査デンマークが1位。日本は43位でした。デンマークでは社会的強者が貧困者、障害者、高齢者などの社会的弱者を助ける民意が確立しているとデンマークで日欧文化交流学院

の理事長をなさっている千葉忠夫さんの話を新聞で読みました。「日本に帰国するたびに気がつくことは自分のことばかり考えて、共生や連帯の精神がないこと。このままでは日本の社会は衰退してしまいます」と心配していらっしやった。共生や連帯といった精神の表れが協働で、企業の人は何かとすぐ競争原理をもちだし勝ち負けにこだわりメディアで攻勢をかけて協働をつぶしてきた。高度成長期の間はまだ若かった世代も、超高齢化少子化の現実をみないではいられない。この時代に協働を身につけないと本当に日本は衰退してしまう。3.11で協働の大切さを学んだはずなのに、それをいかす術もない。私自身のことを反省して気がつくが、身につけてないから、したくてもできないのが本音だと思う。教育委員会のリーダーシップを期待します。

ここで企業の人々の反論に応じて置かねばならない。韓国では「世界1%のグローバルリーダーを育てるアジア最高の英語教育都市」を済州島拠点に建設が進められている。英国の学校を誘致、幼稚園から高校まで14年間の共学の一貫校で授業は英語。まるで日本の占領下の日本語教育を英語でやっている。優秀な人材は英語圏に流出するだろう。アメリカのバージニア州では日本海を韓国読みの東海と併記されている。

韓国はおそらく日本がアメリカの下請けで儲けたように経済関係は進んでいるだろう。オーストラリアも英連邦王国の国なので英国の影響は強いと思うが、1987年から小・中・高での外国語教育が始まり、94年にはアジア語重視がうちだされ日・中・韓・インドネシアの4カ国語について「小3から高1までの6割がいずれかを学ぶ」との目標が設定されている。現在は日本語が最も盛んに教えられているがそれは貿易相手国として日本の比重が高いからで中国の方が高くなれば中国語になるだろう。中国は豊かな国へ変わろうとしている右肩上がりの可能性のある国だが、日本はすでに豊かになっている。少子高齢化で右肩さがりの国である。貿易以外にも魅力を発信しなくては現状維持は難しい。平和を愛する安全で安心できる、文化度の高い美しい国をアピールしたい。

古い物をまもりながら、新しい先端技術もあり、安全で安心できる農産物と農業技術でグローバルに世界と関わっていかねば衰退していく。経済的豊かさと精神的豊かさは連動しないという事実を学べるが、情けなく思う。3・11以降汚染水も制御できてないのに東京オリンピックは拙速と思った。国際会議やイベントの誘致は日本を理解してもらいたい機会となる。そうした会議にも体験学習をできるだけみこんでもらいたい。論旨は外れるが人間は強いものが好きという弱さを内在している。たぶん弱肉強食の歴史のなかで生きてきたからと思う。それが弱さと気付かなければデนมマークのような幸福度世界1の国に近づくこともできない。

▶問題への対応

いじめや虐待などの対応はきめ細かくなされなければならないが、事前に防ぐことも大切になる。そういった情報は集めにくいので、提案したい。これは自己管理能力を付ける目的に小学校の低学年の時の「先生あのね」の発展にもなると思う。手帳で自己管理を

しながら、日記をかく。日記は一日の成果を知ることができ反省という事も学べる。文章の練習にもなる。週1回程度提出させ、担任が把握する。取り入れている学校は山形県立鶴岡中央高校、熊本県立玉東町立玉東中学。直接教師に言えないことも書くことができ、セーフティネットにもなりうる。小・中・高で取り組んでもらいたい。図2

▶今話題になっている、オープンサイエンスへの宇治市の対応が書かれていない
これはグローバル化、情報化への対応と関わってくる。ネットで無料配信される授業がいま話題になっている。カーン・アカデミーのように無料配信すればパソコンを持っている家庭は予習も復習もできる。パソコンをもっているかないかで教育環境が劇的に変わる時代がきている。アメリカや欧州連合は大学の論文をただでよめるようにする「オープンアクセス」に舵を切っている。グローバルに人材を集めたいからだと思う。日本の国会図書館も著作権の切れた本、学術論文を電子化して提供する方向で動いている。富山県では「NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会」図3によるインターネット市民塾を通じた地域活性化への支援や奈良市帝塚山大学ではサイバー・キャンパス・コンソーシアム TIES で授業サポートなどもやっている。e-ラーニングはすすんでいる。オープンサイエンスの生涯学習の時代になっていくのだろうか？協調性や社会性はますます身につかなくなるのか？宇治市はどの様に対処するのか？

▶人工知能に勝つためにも創造力を育ててもらいたい。マインドマップで発想力を高める。仮説をたてて検証する。読書量を増やす。今までにない何かが必要だ。

▶学習方法について

自主的な学習意欲の醸成といった、自らを高め続ける力を養うために、覚える教育プラス、5W1Hでだれが、どこで、いつ、どの様に、何を、は教師が教えて生徒からなぜを引き出す方法はどうでしょうか？なぜを考える習慣がつくと学習力がついていきます。調べ学習に力をいれる。自分で発見していく楽しさが学習力につながる。ここに情報を的確にサポートできる専任の司書が必要です

グループワーク、ディスカッション、レポート作成、発表、にはあまり力が入っていません。体験型学習を地域の人の協力を得て行い発表または情報発信をしていけば表現力も企画力も育つ。

▶今日的課題のエコ教育が弱い

ここは施策7施策11の中で取り組んでいただきたい。

財政の問題でできないなら、市民出資でできる。市民出資で学校の屋根に太陽パネルを設置し、教育に活用して、地域が活性化している所が現にいくつもあります。

宇治市の場合、水力のポテンシャルも高いから、舞鶴市の中筋小のように「川の美化」と

「マイクロ水力発電」を連動して小・中・高で取組、地域のもちやりながら、治水・利水を学ぶことができる。災害対応の教育もできます。

活力ある宇治は今日的課題に市民がどれ位かかわれるかで決まり、成果の分岐点になります。